



夏にはやる病気

医師 牛嶋 規久美

今年も暑い季節がやってきましたね。国立感染症研究所の報告をみると、夏期に流行する病気としてはヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱、無菌性髄膜炎、食中毒などが挙げられます。これらの疾患の特徴や病態、感染対策についてお話しします。

① ヘルパンギーナ

発熱のほかに口腔内に粘膜疹を形成することが特徴です。38-40℃の熱が1-3日続き、咽頭痛、嘔吐やよだれが多くなったりします。主にコクサッキーウイルスA10型やA4型によって引き起こされます。潜伏期は3-5日で飛沫感染や糞口感染し、5歳以下、特に1-2歳の小児が多く発症します。

② 手足口病

発熱のほかに手、足、口腔内、口唇粘膜、舌に水疱性発疹が出現することが特徴です。口腔内の水疱が破れて潰瘍を形成すると、痛みのため水分摂取が不十分となることがあります。主にコクサッキーウイルスA16型、エンテロウイルス71型によって引き起こされます。潜伏期は通常3-5日で、飛沫感染や糞口感染し、5歳以下の小児に好発します。ウイルスの型が異なれば2度発病することもあります。

③ 咽頭結膜熱（プール熱）

発熱、咽頭炎、結膜炎が3主症状で、38-40℃の発熱が数日間続きます。頭痛、眼痛、嘔吐、腹痛、下痢などを伴うことがあります。汚染されたプールの水を介して流行することがあるためプール熱と呼ばれ、主にアデノウイルス3型によって引き起こされます。潜伏期は通常5-7日で、1-5歳の小児と小学校低学年の児童の発症が多いです。

④ 無菌性髄膜炎

発熱、頭痛、嘔吐が主な症状で、腹痛、下痢もよくみられます。乳幼児の場合にはだっこされるのを嫌うこともあります。エコーウイルスやコクサッキーウイルスなどにより引き起こされ、これらのウイルスの場合には潜伏期は4-6日です。糞口感染や飛沫感染し、幼児及び学童期に好発します。脱水のために輸液療法が必要になることが多いですが、ウイルス性であれば補液、安静により症状は軽快します。診断のために行われる髄液の採取により、症状が軽減することも多いです。一般的に後遺症は残さず、完全に回復しますが、生後数カ月以内の乳児の場合には、精神発達遅滞の危険因子となることもあるため、その後の経過観察が必要です。

これらの病気と診断されたら・・・

熱が4-5日続くことが多いのですがウイルスによる病気なので特効的な治療薬はありません。熱やのどの痛みをやわらげる対症療法が中心です。のどが痛くて食欲がなくなることが多いので、のどにしみるような柑橘類のジュースなどは避けて、飲みやすいもので水分補給をするとともに、のど越しのよい食事を用意します。

家族にうつさないためには・・・

これらのウイルスの一般的な感染経路は経口あるいは接触、飛沫による感染です。流水と石けんによる手洗いをこころがけ、特にアデノウイルスは感染力が強いので、食器の共用を避ける、同じ洗面器を使わない、タオルは別にするなど家族への感染を防ぐ努力をしましょう。糞便への排泄は数週間続くため、おむつ交換後には手洗い、消毒を励行しましょう。



⑤ 食中毒

食中毒で大事なのは何を摂取したのか、疑わしい食物を摂ったからの経過時間と症状です。主な原因となる細菌を以下に示します。症状としては嘔吐、腹痛、下痢、血便などがあります。



黄色ブドウ球菌・・・ハム、鶏肉、卵サラダなどを摂取後

6時間以内に発症

ビブリオ菌・・・海産物（特に生牡蠣）など摂取後6-72時間で発症

カンピロバクター・・・火が通っていない鶏肉や牛肉、低温殺菌されて

いない牛乳を摂取後16-72時間で発症

サルモネラ菌・・・火が通っていない鶏肉などの肉、卵、爬虫類との

接触後16-72時間で発症

病原性大腸菌・・・挽肉、生乳など摂取し16-72時間で発症



抗菌薬を使用することもあります。基本的には十分な細胞外液の補充となります。スポーツドリンクは塩分濃度が低いので、OS-1 やアクアライト、味噌汁の上澄みなどをおすすめします。感染対策を行い、元気に夏を乗り越えましょう。



感染症について知ろう！！②

～シラミ～



プールのシーズンとなりました。この頃、子ども達の間で集団発生する皮膚病の1つに『**頭シラミ症**』があります。主な感染経路は頭の接触・ロッカー・脱衣かごの使用・タオルの共用などで、学校や園でのプール開始と大きく関係があります。また子どもに添い寝するためか、母親にうつることもあります。

<頭シラミ症とは？>

頭シラミは体長2～4mmで黒色調、毛髪に寄生し、頭皮から吸血するため、かゆみや湿疹をおこします。また、毛髪の生え際数cmのところ、約0.5mmの白色調の卵を産みつけます。この卵は毛にしっかり固着し、とれにくいためフケとは簡単に区別できます。

<治療>

薬局に市販されている**スミスリンシャンプー**（またはパウダー）を使います。シラミは毛根近くにいるので地肌にシャンプーをつけるようにします。このスミスリンで虫は死にますが、卵は死なないため、心化したところを見計らってシャンプーを3日に1度3～4回くり返す必要があります。

<家庭での注意点>

- ① タオルを共用しない。同じ布団で子どもと寝ない。シーツ、枕カバーは毎日洗いかえをする。布団を天日干しする。
- ② クラスメイト、友人、家族に同症があれば、同時に治療を行う。
- ③ 毛髪に卵を認めても、抜け殻であれば心配なく、いつまでも薬剤を使用しない。

★普段、頭をかゆがらない子がこの時期、急に頭をぼりぼりかきだした時は、よく気をつけて頭の中を見てください。白いゴマ粒より一回り小さいものが毛根数cmのところにくっついていて簡単にとれないようならば、本症の可能性がります。また、頭の中を黒いものが動き回っていれば確実です。不安な方は、一度皮膚科に相談してみてください。

受付時間のご案内

午前 09:00～11:30
午後 14:00～17:30

受付終了時間の間際(午前11:00～11:30、午後17:00～17:30)は混みます。早めの受診をおすすめいたします。

※急患の方は救急(夜間・休日)専用番号にお話ください。TEL097-567-2311

予防接種のお知らせ

予防接種は完全予約制です。

翌月の予約は毎月26日14時開始です。(日・祝日の際は、次の平日です。)

お電話にてお問い合わせ下さい。TEL097-567-0050

※各予約については平日18時までの受付です。



8月

各専門外来の予定

日	月	火	水	木	金	土	
						1 皮膚科	
※各専門外来は完全予約制になります。ご希望の方は受付またはお電話でお問い合わせください。		青…午前のみ 桃…午後のみ オレンジ…終日					
2	3 皮膚科 神経発達外来	4 外科 皮膚科 アレルギー外来 神経発達外来	5 外科 皮膚科 アレルギー外来 腎外来(桑門Dr)	6 外科 皮膚科 アレルギー外来 神経外来(岡成Dr)	7 外科(大野Dr) 外科(當寺ヶ盛Dr) 皮膚科 アレルギー外来	8 外科 皮膚科 泌尿器外来 内分泌外来(岩田Dr)	
9	10 外科 皮膚科 神経発達外来	11 外科 皮膚科 アレルギー外来 神経発達外来	12 外科 皮膚科 アレルギー外来 こどもの心外来 腎外来(桑門Dr)	13 皮膚科 アレルギー外来	14 外科(當寺ヶ盛Dr) 皮膚科 アレルギー外来	15 外科 皮膚科 腎外来(田中Dr)	
16	17 外科 皮膚科 神経発達外来	18 外科 皮膚科 アレルギー外来 神経発達外来	19 外科 皮膚科 アレルギー外来 腎外来(桑門Dr)	20 外科 皮膚科 アレルギー外来 神経外来(岡成Dr) 内分泌外来(井原Dr)	21 外科(當寺ヶ盛Dr) 皮膚科 アレルギー外来	22 皮膚科	
23	24 外科 皮膚科 神経発達外来	25 外科 皮膚科 アレルギー外来 神経発達外来	26 外科 皮膚科 アレルギー外来 こどもの心外来 腎外来(桑門Dr)	27 外科 皮膚科 アレルギー外来	28 外科(當寺ヶ盛Dr) 皮膚科 アレルギー外来	29 皮膚科	
30	31 外科 皮膚科 神経発達外来						

